

2006

見て、重ねて、学ぶ構図

Learning Composition Through Overlaying Grid

AD07 小駒 梓

指導教員 西野 隆司, 氏家 和彦

1. 研究目的

今、カメラは誰でも持てるようになった。「カメラ女子」という言葉も生まれるほどに、ブームになっている。難しい事を考えなくても、誰でも簡単に鮮明な写真が撮れるようになり、SNS の写真共有サイトなどでも、日々たくさんの写真が発信されている。そんな中、他の人が撮った写真と違いが出るのは構図である。私はその構図を、一番分かりやすく学べるマニュアルを研究し提案する。

2. 調査と分析

写真をうまく撮るためには、カメラの機械的な使い方を知るよりも、写真を「創る」という感覚を身につける方が効果的だと考えた。そのため、デザインやアートの基本であるデッサンと同様に、写真の基本である構図を学べるものが良いと考えた。

マニュアルをつくるにあたり、まず市販されている既存の構図マニュアルについてどう思うか、学生にヒアリング調査を行った。その結果、「読む気がおきない」「とっつきにくい」「説明を読むのが面倒くさい」などの意見があがった。このことから、マニュアルは直感的でわかりやすい媒体のものがいいと考えた。

3. コンセプトの立案

「直感的でわかりやすい構図マニュアル」

4. デザイン展開

コンセプトを実現するために、重要と考えられるポイントを設定した。

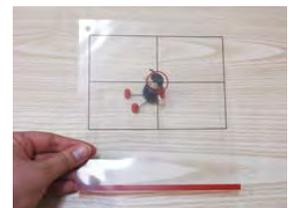
1つ目に、直感的に理解してもらうための、カード型ツールの採用。これは単語帳をヒントに考えた。

2つ目に、「重ねる」という方法。これは、デッサンの時に使うデスケルデスケルとは：四角い透明プラスチックの板に木炭紙の形を切り込んで目盛りをつけたもので、デッサンや絵画の構図を確かめるために使うものをヒントに考えた。透明シートにグリッドを(構図)を印刷し、例で載せた写真の上に重ねることで、直感的にどんな構図なのか分かるようにした。

3つ目に、思わず実践してみようと思えること。これは見かけた小さな「穴」を覗きたくなったりするような、思わずやってしまうことをヒントに考えた。具体的には、取り外して使用可能な「透明シート」の採用である。このシートは、それだけで持ち歩くことも

できる。そうすることで、グリッドを景色にかざし構図に合う背景を探すことができたり、カメラに当てて撮影することもできる。また、構図の説明文は既存のマニュアルのように堅くならないように文章を少なくし、簡潔にした。更に、透明シートと説明文がバラバラになってしまっても、一目で分かるように色分けをし、直感的にペアが分かるようにした。

5. 完成図



6. 結論

カメラを始めたばかりの人と写真撮影に興味がある人にそれぞれこのマニュアルを使用してもらったところ、透明シートのアイデアが分かりやすい、説明文を読まなくても意味が分かる、などといった答えをもらえた。また、絵を描く時にも使ってみたい、色々な種類のグリッドを組み合わせさせて撮影してみたい、など新しい使い方の提案が得られた。以上のことから、「直感的でわかりやすい」というコンセプトの目標は達成することができた。

文献

山口高志, 『構図で決めよう! 上手な写真の狙い方』, 学研, 2006